

公益社団法人私立大学情報教育協会
平成24年度第1回大学情報システム研究委員会議事記録

- I. 日 時：平成24年6月2日(土)午前10時30分～午後12時30分
II. 場 所：私学会館アルカディア市ヶ谷
III. 参加者：深澤委員長、安田委員、鈴木委員、山崎委員、田胡委員、藤村委員、浜委員、
西松委員、日立製作所、日本電気、富士通、伊藤忠テクノソリューションズ
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 23年度事業報告

- ・ 大学情報システムについて、クラウド留意点から導入事例の一覧まで報告し、教育クラウドの試算例と災害対策でのデータの持ち合いなど記載した。体系的な活動までの進捗はなかった。

2. 24年度事業計画

- ・ クラウドの導入含めた大学情報システムの再構築について、経費節減や負担軽減、教育機能高度化、震災等対策までの研究を実施したく、研究の手立てとして「1. クラウド導入効果の検証」「2. クラウド以外による大学情報システム再構築の可能性」「3. 教育・研究機能の高度化をめざした大学情報システムの可能性」「4. 大学情報システムのリスクマネジメント」の4つの項目を設定して進める案が提示された。

3. 進め方について

- ・ クラウドの効果を検証する必要がある、どのような方法があるのか。
- ・ クラウド以外での大学情報システムの再構築については検討できないか。
- ・ 教育・研究機能の高度化は、オープンコンテンツの利用が考慮できないか。クラウド上に創発的な知を構築できないか。
- ・ リスクマネジメントは必要な課題をまとめていきたい。
- ・ 事務局案は委員会として順序立てて決定することにし、小グループに分かれて検討作業してはどうか。

4. 委員の意見

- ・ 大学でクラウドを導入するメリット・デメリットまでの研究が委員会としての目的ではないかの意見があったが、大学の情報システムの範囲としてとらえている。
- ・ クラウドも教育機能の高度化で必要ではないか、アプリケーションより枠組み・システム的なレベルでのまとめができないか。教育クラウドとして知を結集して新しい知をつくるクラウドがシステムとして考えられないか。例えば、事例集や情報投資の現状把握などに容易にアクセスできる相互支援の活動で国の支援にターゲットを向けてはどうか。情報機器導入の解説書では研究のまとめとして不足と考える。
- ・ 何が問題なのか、クラウド上のソフトが動かなかったり、費用が効果だったり、どこまで出来るのかが不明瞭。今までのシステムでは上手くいかないが、利用したいものがクラウドになるのか。学内事情でクラウドという言葉を使わない例もある。
- ・ 教育サービスとしてなにが必要かから進めて、それがクラウドなのかそれ以外なのか。サービスを共通化してつくり、事例集としてまとめてはどうか。モデル化としてメリットの想定が必要。

- ・ クラウド以外の情報システムを考えた場合、仮想化はクラウドの範囲ではないか、管理部分はリスクマネジメントの範囲ではないか。「1. クラウドハード」「2. クラウドアプリでなくても良い大学の情報システム」「4. リスクマネジメント」として3本柱でまとめてはどうかの意見があり、当初案の「2. クラウド以外による大学情報システム再構築の可能性」は検討から除くことにした。
- ・ 事例を表にしてクラウドを分類整理してはどうか。比較アイテムは何か、実際の費用は大学に求める必要がある、大学にインタビューする必要がある。
- ・ クラウドはハードの置き換えだけではなく、自前設備より割高や将来の追加費用で高価になる場合があり、費用の判断は、どこでみるか多面的な評価が必要となる。
- ・ クラウドとするか、サービスとして捉える必要があるのではないか。サービス項目の追加で広がり、パッケージの問題でクラウドではないのではないか。クラウドは基盤でサービスは別に考える必要がある、サービスの要求によって割高になる。
- ・ クラウドは共通に管理しているから安い。クラウドはつくるものでなく、提供されるもの、共通のものをくくりだすことではないか。共通なものとしないとクラウドの価格メリットは出せない。例えば履修システムは大学共通ではないので共通項がない。
- ・ クラウドで仲間同志で知を集めることはできないか。条件設定をして、活用するイメージでモデルの構築ができないか。既設利用の範囲ではクラウドはのびないのではないか、大学としての高い目標に合わせることはできないか。四国4県の取り組みやeラーニングでの総合大学化など。共有地のプラットフォームとしての理解。大学協同化してコストダウンできるモデル化が考えられないか。
- ・ 中小規模の大学ではクラウド化は人数が集まらないとメリットにならない、1万人規模で安くなる計算が成り立つと試算されたことがあった。
- ・ フレームワーク・共通部分をつくって、各大学でカスタマイズする考えもあるが、フルカスタマイズは高価になる。
- ・ パッケージが合わずにカスタマイズも出来ず作成できない例もあった。
- ・ 失敗事例も参考になるのではないか。
- ・ 大学としての事業継続のガイドラインでは、命が大切、授業が大切、コンピュータはその次でデータだけ守れば良いか。安否確認は検討されている。
- ・ 共通ニーズが洗い出せないか、現実なところで事例として集めて書きこんで整理してはどうか。

5. 今後の予定

- ・ 当面、「1. クラウド導入効果の検証」「4. 大学情報システムのリスクマネジメント」について、ネット上でとりまとめるとこにした。
- ・ それぞれ小グループに分かれ、ネットのドキュメントに書きこみまとめることにした。